

## ～眼科分野として県医師会医療チームに参加して～

眼科医も被災地に何かしたい。その思いを受け西部眼科医会会長の古林先生から、登山経験や JICA と海外眼科医療援助を計画した経験のある私に、現地入りの話があった。県医師会の田中常任理事にご相談したところ、山形空港までの足を自己調達できれば同行を許可頂けるとのことで、すぐさまキャンセル待ちをかけ、なんとかチケットを入手した。

山形空港からは西田副会長、田中常任理事と共に2時間半近くタクシーに揺られ、昼過ぎ石巻中学に着いた。到着後すぐに川島会長から13時から15時までを眼科診療時間とするようご指示頂いた。診療室がまだ十分に整備されておらず、薬箱に埋もれながら眼科診療を始めたが、翌日に薬剤師の方が来られ診察室の整備は一気に進んだ。

眼科受診者は、初日6名だったが眼科診療開始の情報が広がるにつれ最終日は24名と日々増加した。3名の重症者（緑内障・網膜裂孔・網膜出血）は、ようやく機能しはじめた石巻赤十字へ紹介した。診療時間以外は、避難所の体育館や近隣の門脇中学避難所へ巡回をおこなった。



今回の派遣では、単に緊急災害医療ではなく一般眼科診療所レベルの診療を目指した。これは石巻の眼科医院全てが相当な被害を受けた今、避難所やその周辺の方のニーズに合ったものであった。被災した現地の医師も同様で、『遠路遙々の救援さらに継続の眼科医師派遣誠にありがとうございます。午前での患者も殺到しており、午後の避難所往診の継続も苦しくなっている時に、今回のお話しは誠に嬉しい限りです。みんなで力を合わせて、この難局を乗り越えましょう。』とのメール（抜粋）をいただいた。被災した人は誰しも、日常を取り戻そうと必死なのだ。

被災地の眼科医療に少しはお役にたて、自身も沢山の学びを得た石巻での活動であった。このような機会を与えてくださった、川島会長はじめ全ての方々に心よりお礼申し上げます。

兵庫県医師会 代議員  
淡路市医師会 副会長  
(医)明視会 仲上アイクリニック 理事長  
医学博士 眼科専門医 松田 聡

